



GSユアサの新エコ・アールはじまる。

エコカーを
支えてきた
安心のカー
バッテリー



エコ・アール
ECO.R

アイドリングストップ車やハイブリッド車、充電制御車やEN規格車など、数多くの車両に新車搭載されてきたGSユアサのカーバッテリー。

確かな技術力とものづくりへの対応力で、多くの自動車メーカーに採用され、みなさまのお車に最適なカーバッテリー「エコ・アール」をお届けすることで、環境に優しい「エコカー」の普及に大きく貢献してきました。

ジーエス・ユアサバッテリーは、「エコ・アール」シリーズの開発を通じて、エコカーと乗る人に「安全」と「安心」を提供し続けてまいります。



ECO.R レボリューション ECO.R イー・シー ECO.R イー・エヌ・ジェイ ECO.R ハイブリッド

株式会社 ジーエス・ユアサ バッテリー

2026年 夏季特集 自動車バッテリー

現在、補修用バッテリー（乗用車）の商品ラインアップは、アイドリングストップ機能（IS）を装備しない一般的な車両向けだけでなく、IS搭載車専用やハイブリッド車（HV）向けの補機用に加え、日本車でも採用が増えている欧州連合（EU）で制定された「EN規格」など多岐に渡る。

こうした車載バッテリーを巡っては、猛暑や酷暑によるエアコン負荷の増大という季節要因のほか、最近では駐車中も作動するドライブレコーダーやセキュリティ、電動リアゲートなど、エンジンがかかっていない状態でも電力を消費する機能、装置の搭載拡大でバッテリーを酷使する度合いは強まっている状況だ。そのため、補修用バッテリーについても「耐久性は従来以上に重要な商品性能基準になる」と指摘する。

予防点検・定期交換の提案 `接触`のチャンスに

現状、中東情勢の影響で受注や生産を停止しているメーカーはない。原材料調達にもめどが付いているという、ただ、各社とも「今後どうなるかわからないのも実情で、注視していく」方針だ。酷暑や電装品の搭載拡大、製造コストの上昇と販売の値上げなど、補修用バッテリーを取り巻く市場環境の変化は大きい。ただ、約3000万台の保有台数を背景にした底堅い需要は変わらないと見られている。だからこそ、メーカーや販売店による早期の点検案内や販促キャンペーンなど地道な営業活動こそ、市場環境が変化しようとも欠かすことができない重要な販売戦略となる。

夏本番

問われる耐久性能



止まらない値上げ 順次10〜20% 一方、昨今の売れ筋商品は、IS向けとEN規格の2商品だ。27年にも総販売個数の半数以上を占めるまでに市場が拡大すると予想するバッテリーメーカーもある。IS向けは一服感があるとの見方がある一方、EN規格バッテリーについては、自動車メーカーの標準採用の拡大に合わせて補修用市場でも需要が増えている状況だ。

市場環境変化も 底堅い需要は健在 現状、中東情勢の影響で受注や生産を停止しているメーカーはない。原材料調達にもめどが付いているという、ただ、各社とも「今後どうなるかわからないのも実情で、注視していく」方針だ。酷暑や電装品の搭載拡大、製造コストの上昇と販売の値上げなど、補修用バッテリーを取り巻く市場環境の変化は大きい。ただ、約3000万台の保有台数を背景にした底堅い需要は変わらないと見られている。だからこそ、メーカーや販売店による早期の点検案内や販促キャンペーンなど地道な営業活動こそ、市場環境が変化しようとも欠かすことができない重要な販売戦略となる。

バッテリー酷使の季節

バッテリーを酷使する季節がやってきた。日本自動車連盟（JAF、坂口正芳会長）によると2025年8月9〜18日（盆休み期間）の四輪車のロードサービス救援件数は7万4655件。最も多い出動理由は「過放電バッテリー」の2万2377件で、全体の約3割を占めた。近年は季節要因に加え、自動車技術の進化や電装品の搭載拡大などに起因するバッテリー負荷も大きくなっている。こうした環境下、補修用バッテリーメーカー各社は製品性能の向上のみならず、予防点検や定期交換の推奨を販売店とともに進め、販売機会の創出につなげている。

「バッテリーを酷使する季節」と指摘するバッテリーメーカーもある。新車価格の高騰や品質向上なども背景に、JIS規格のバッテリーを搭載する低年式車を取り替えるユーザーが少なくないため、車の使用期間の長期化がするほど、JIS規格のバッテリー需要を下支えする構造となっている。

Panasonic
AUTOMOTIVE



BLUE BATTERY
caos



補修用バッテリー各社の声

エナジーウィズ 藤浪 司

執行役員営業本部本部長

「補修用バッテリーの市場動向は」「需要は底堅い。年間1600万台レベルだと推測している。その中で大きな変化点の一つがEN電池だ。当社の出荷ペースでも比率は上がっている。今後もEN電池市場は広がっていくだろう」

「社名、商品ブランドの認知度が高まってきた

社名・ブランド認知の引き上げへ



「取り組まなければならぬのは歴史のある国産バッテリーメーカーであることを訴求し、社名や商品ブランドの認知度を底

上げすることだ」と認識している

「具体的に取組んでいることは」「6月に開設したSN

Sの公式アカウントはその一環だ。当社の活動内容やバッテリーに関するお役立ち情報などを発信していく。また、当社は4月に石井義人社長が就任し、社名と商品ブランドの認知度向上に力を入れる方針を打ち出した。営業部門だけでなく、広報、人事総務なども連携し組織横断での取組みも始めている」

「販売店への支援策は」「キャンペーンなどの

販売支援を継続して実施するほか、月1回発行している『バッテリー通信』を活用した情報共有も進めている。ちなみに7月号のテーマはENバッテリー。採用バッテリー型式や搭載位置の一例など実務に役立つ情報も提供している」

「受発注システムを活用した業務効率化も推進している。販促ツールサイトや、バッテリー適合検索システムなども連携することで利便性も兼ね備えたシステム構築を進めている」

「エネソルホールディングス(HD)体制がスタートした」「古河電池とのシナジーを出すための検討を開始している。製品ラインアップ関係では、例えば当社が持っている二輪車バッテリーの相互補充は当然考えられる話だ。社会インフラ関係の事業でも製品補充のチャンスはある。こうした補充関係ができるからこそ新たな販路拡大にもつながる。物流関係でもシナジーは期待できる。次世代電池の共同開発も同様だ。段階的に効果を出していきたい」

古河電池 赤星 貢

執行役員 自動車事業本部 自動車営業統括部長

「自動車補修用バッテリー市場の動向は」「国内には約8千万台の保有台数がある。このうち補修用バッテリーの需要は約5分の1に当たる1600万台レベルで推移している。この市場を海外も含めたメーカー各社でシェアを取り合っている状況だ。ただ、この構図は過去から変わっていない。当社の実績も前年並みで推移しており、そ

の意味では安定した底堅い市場があると言っている」

「酷暑が強い車両電動化が進む中、補修用バッテリーに求められる性能は」「ユーザー目線の基準は性能ランクになる。数字が大きければ容量に余裕があり、始動性も優れると認識される。そのため松竹梅とそろえた商品ラインアップの中ではランクが高い製品ほど高く販売できる。一方で、当社にはアイドリフグスト

ップ(ESS)車用として、『ウルトラバッテリー(Ultra Battery)』がある。この製品は鉛バッテリーとキヤパシタの機能を融合させた技術を採用してお

り、優れた充電受入性と耐久性を両立している。頻繁な充放電が繰り返される過酷な環境下でも高い回復性を発揮し、長寿命であるという、従来の鉛バッテリーとは一線を画す実力を持ったバッテリーである。今後は、こうした特長をより分かりやすく伝え、さらなる拡販につなげていきたい」

「営業活動で重視していることは」「当社製品の売り上げが高い販売店『スーパーディーラー』へのサポートを強化している。当社

「各種キャンペーンの実施にも力を入れている。スーパーディーラー向けのキャンペーンに加えて、昨今、搭載が増えているEN規格バッテリーに特化したキャンペーンなども検討している」

「26年4月から新体制がスタートした。どんな相乗効果を期待しているか」「これからはエネソルホールディングス(HD)傘下企業としてエナジーウィズとも事業活動を展開している。3月には公式ウェブサイトのリニューアルも行い、利便性向上を図った。販売実務のサポート強化とブランド活動の両輪で取り組んでいる」

「バッテリーマイスター」の存在も大きい。『マイスター制度』は発売から18年を迎えた。現在全国で約3800店が認定を受けており、当社のバッテリー販売を支える基盤となっている。バッテリーの予防交換を強力に推進していただいており、エコカー用バッテリーの普及やバッテリートラブルゼロの実現に向

スーパーディーラーの支援強化



「店頭販売をサポートする演出や接客ソールの提供はもちろん、一般消費者へのブランド認知強化に向けSNSも積極活用している。具体的にはYouTubeで動画クリエーターに商品を紹介いただき、また自作ショート動画の配信、そしてXでの情報発信や懸賞な

「カーバッテリーは販売員の推奨が購入のきっかけとなることが多いからだ。だからこそ講習会や勉強会などを通じて、知識や説明スキルを高めるサポートを推進している。また対面支援だけでなくオンラインで情報入手ができる専用ウェブサイトを展開しており、各種の情報や講習会の動画も用意している。で販売店での新人教育などにも活用いただいている」

「カーバッテリーは販売員の推奨が購入のきっかけとなることが多いからだ。だからこそ講習会や勉強会などを通じて、知識や説明スキルを高めるサポートを推進している。また対面支援だけでなくオンラインで情報入手ができる専用ウェブサイトを展開しており、各種の情報や講習会の動画も用意している。で販売店での新人教育などにも活用いただいている」

ジーエス・ユアサバッテリー 中村 英昭

営業推進部長

「昨今の需要動向は」「2025年度の国内需要は国内メーカー合計で1300万個は、輸入を含めると1800万個弱と推定され、おおむね堅調に推移したと見ている。この背景には車両の耐久性、品質の向上に加えて、新車の価格高騰や長納期化による買い控えに起因する車両使用の長期化があるものと推察す



る。これにより低年式車に搭載されているJISタイプの需要が底堅く推移し、結果として市場全体の活性化につながったと見ている」

「売れ筋商品は」「伸長中のタイプは主にEN規格とティドリン

グストップ(ESS)車用である。この2品種だけで昨年度需要における構成比は約44%を占めると見ており、27年度には半

数近くまで伸びると推定している。当社としても拡販すべき領域だと認識しており、ディーラーや整備事業者など有力な販

売店に対するサポートを強化する。今期はこの伸びる領域の需要をしっかりと取り込んでいく」

「具体的な販促策は」「店頭販売をサポートする演出や接客ソールの提供はもちろん、一般消費者へのブランド認知強化に向けSNSも積極活用している。具体的にはYouTubeで動画クリエーターに商品を紹介いただき、また自作ショ

ート動画の配信、そしてXでの情報発信や懸賞な

まだ伸びるEN規格とESS車用



高性能ACDelcoバッテリー ▶ 始動性能(CCA) 蓄電容量(Ah) 耐久性 信頼性

■これからの主流 EN規格バッテリーシリーズ



ACDelcoのブランド哲学は「Be Certain(確かな安心)」を核として、その哲学はゼネラルモーターズのエンジニアリング基準に裏付けられた高品質で信頼性の高い自動車部品をお客様へお届けすることです。

蓄える力、動かす力、見守る力で
社会を支え未来を創造する



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

FB 古河電池株式会社

アイドリングストップ車用バッテリー



ECHNO
エノ IS
UltraBattery

世界初[※]特許取得済み

世界初の新技術による
パワフルで長寿命タイプ

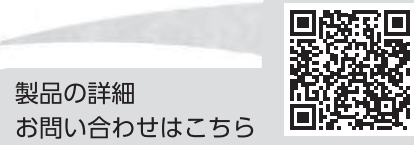
※日本特許特許 第5315256号他

EN規格(日本車仕様)バッテリー

ECHNO
エノ EN
Premium



あらゆるシーンにお応えする
高性能EN規格バッテリー



製品の詳細
お問い合わせはこちら

自動車営業部 〒240-0006 神奈川県横浜市保土ヶ谷区星川2-4-1
HP: www.furukawadenchi.co.jp

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高



「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

青野 功次郎 常務取締役営業本部長

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

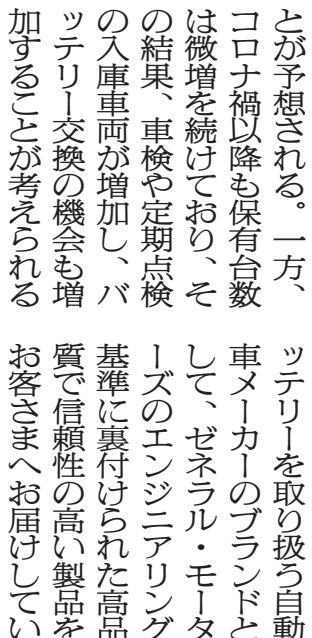
「caos」20周年で新たな歴史を

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高



「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高



「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

ACデルコ 松本 茂登 カスタマーケア& アフターセールスディレクター

「caos」のブランド
コンセプトを刷新し、新
たなロゴマークとキャッ
チコピーを策定した。高

改めて「定期点検」「予防交換」啓発

Energywith



もう、覚えてもらえましたか？

エナジーウィズ株式会社は、2021年に誕生した新しい会社です。
しかし、100年以上にもわたりバッテリーなどを製造・販売。
新しい会社なのに、じつは実績だってあるのです。
これまでの信頼やノウハウを受け継ぎながら、サステナブルな未来へ。
エナジーウィズは、皆さまのカーライフをつねに快適なものにできるよう、
カーバッテリーを通して、これからもずっと支え続けていきます。

エナジーウィズ株式会社
本社:東京都千代田区神田練馬町3(AKSビル) <https://www.energy-with.com/>
埼玉事業所:埼玉県深谷市岡2200 名張事業所:三重県名張市八幡1300-15